

令和 8 年度 宮崎県 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、自分の思いや考えを伝え合うことのできる基礎的な能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びを具現化する言語活動の充実に重点を置いた授業改善を図る。

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☐ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

○授業改善に向けての研修会において、言語活動の在り方を主体的に考える姿が見られた。

未だ改善が必要な点

①目的や場面、状況等に応じた自分の思いや考えを伝え合う言語活動の設定が不足している。

②5領域をバランス良く育成することに課題があり、特に、話すこと（やりとり）について、十分な活動が確保されていない。

2. 要因分析

○授業研修会への参加者が、提案授業をもとに、自分の授業の改善点について、指導教諭のアドバイスをもらいながら協議するスタイルが参加者の主体的な参加につながったと考える。

①研修参加後に、内容を振り返り、確認しながら自らの授業に生かせる手立てが必要であったと考える。

②1単位時間の授業のみならず、単元をとおした指導の中で5領域を育成するため、単元計画についての研修等が必要であったと考える。

3. 目標を達成するための施策・事業

宮崎県が推進する「ひなたの学び」を意識した授業改善に向けての研修会の実施

「主体的・対話的で深い学び」をとおして実現される子どもの学びの姿を、分かりやすく示した「ひなたの学び」の実現に向けた授業改善について、研修を行う。

研修の方法については、県下の指導教諭と指導主事がチームを組み、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善の考えに基づく研修を行う。内容は、目的・場面・状況等の設定と明確なめあてと振り返りによる言語活動の充実に図ることをとおして、単元でどのような領域を育成するかを明確にした授業を提案する。

また、本研修会における授業及び、授業づくりについてのポイントを動画として作成し、県下の教員が視聴できるようにした上で、教科研修等での活用促進を図る。

小学校外国語教育実践加配教員の活用促進

外国語教育に携わる教員を支援し、指導力向上及び児童の英語力向上を図るための本加配の活用について、研修会や市町村教育委員会との連絡協議会等を利用し、周知するとともに、活用促進を図る。

令和 8 年度 宮崎県 英語教育改善プラン

目標

コミュニケーションの目的や場面、状況等に応じて、自信をもって英語で自分の思いや考えを伝え合うことのできる資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びを具現化する言語活動の充実に重点を置いた授業改善を図る。

○ CEFR AIレベル相当以上の生徒の割合 (R7: 48.2% ⇒ R8: 54.0%)

☒ 言語活動 ☐ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

○人との文字でのやり取り（電子メールやSNS、チャット等）を実施した学校の割合

(R6: 19.0%
⇒ R7: 39.7%)

未だ改善が必要な点

① CEFR AIレベル相当以上（有すると思われる生徒含む）の生徒の割合

(R6: 47.0%
⇒ R7: 48.2%)
全国平均 54.6%

② 知識習得に重きが置かれ、活用できる技能を生徒に身に付けさせる授業が行われていない。

2. 要因分析

○令和6年度より、各種研修等において、実際のコミュニケーションの場面における言語活動の重要性について示したことがポイント増につながったと考えられる。

①② 3年間の学習内容を踏まえ、既習事項を取り入れながら、話したり書いたりすることで、言語材料を確実に増やす言語活動を設定することができていないことが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

宮崎県が推進する「ひなたの学び」を意識した授業改善に向けた研修会の実施

「主体的・対話的で深い学び」をとおして実現される子どもの学びの姿を分かりやすく示した「ひなたの学び」の実現に向けた授業改善について研修を行う。

研修の方法については、県下の指導教諭と指導主事がチームを組み、「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善の考えに基づく授業を作る。単元終了時の姿から、単元をとおしてどのような資質能力を育成するのかを明確にし、授業公開を通して、全県下に効果的な言語活動を設定する授業を提案する。

また、本研修会における授業及び、授業づくりについてのポイントを動画として作成し、県下の教員がいつでも視聴できるようにした上で、教科研修等での活用促進を図る。

AIを活用したグローバル人材育成のための英語教育強化事業

課題が見られる話すこと・書くことを中心としたAI英語アプリを指定校に導入し、言語活動を充実させることで、生徒達の英語力をどのように伸ばせるかを研究し、指定校の先進的な事例を発信することで、この取組の成果を全県下に広く普及する。

令和 8 年度 宮崎県 英語教育改善プラン

目標

- ◎ 5 領域の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動の充実とパフォーマンステストによる学習評価の充実
- ◎ AIを活用したグローバル人材育成のための英語教育モデルの構築
- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R7 : A2以上 41.1%、B1以上 20.6% ⇒R8 : A2以上 54%、B1以上 24%)

☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☒ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

①CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得している生徒の割合について、上昇が見られる。
A2レベル相当
R6:31.5%⇒R7:33.7%
B1レベル相当
R6:14.8%⇒R7:19.1%
②言語活動の成果を測るパフォーマンステスト実施率に上昇が見られる。
R7年度
英コミュⅠ : 話すこと 89.1%
書くこと 87.0%
①CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が、年々低下している。
R6:
A2以上 11.1%、B1以上 3.1%
R7:
A2以上 7.3%、B1以上 1.5%
②授業中、発話の50%以上を英語で行っている割合が低下した。
R6:45.2%⇒R7:34.9%

2. 要因分析

①本県の学力向上事業である「新たな時代を切り拓く学力向上授業」とおして、CAN-DOリスト・年間指導計画と単元計画がリンクしている目標に準拠した指導と評価の一体化について研究を行うなど、実践共有を進めたことが要因であると考えられる。

②R7年度末に、言語活動の成果を測るパフォーマンステストの実施状況調査を実施したことが要因であると考ええる。

①「取得した生徒」が年々上昇する一方、「有すると思われる生徒」の割合は減少している。CEFR指標に準拠した教師の見取りに課題があると考え。
②発話の75%以上を英語で行っている割合がR6 : 14.4%⇒R7 : 3.6%と、著しく低下している。学習指導要領の改訂から数年を経て、高度化する学習内容に対する達成状況を踏まえた各学校の学習指導方法に変化が起ったのではないかと分析する。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②「AIを活用したグローバル人材育成のための英語教育強化事業」
AIを活用し、生徒一人ひとりが自分のレベルに応じた対話や英文添削等の個別フィードバックを受けながら学習できる環境を整備し、AI活用を英語力向上に直結させる教育モデルを構築する予定。

①「世界とつながる高校生海外留学支援事業」の実施
グローバル人材の育成を目的とした、海外留学支援事業、グローバルキャンプ（イングリッシュキャンプ）、留学支援フェア、探究学習をフィールドとするグローバル高校生フォーラムを開催予定。事業を通して、英語でのコミュニケーション能力を積極的に活用する場を設けていく。

①②「新たな時代を切り拓く学力向上事業」の実施
「みやざき学力向上実践校」を指定し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実をテーマにした研究を行い、授業公開にて成果共有を実施する予定。外国語科においては、年間指導計画と単元計画をリンクさせ、5 領域の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動の充実を図るとともに、その成果を見取る妥当性の高い評価についても研究を深めていく。

①①ALT(外国語指導助手)授業力向上のための研修“SDC研修”の実施
例年、ALTの授業力向上のために実施している本事業において、外部有識者を招聘し、実践的なチーム・ティーチングとうについて、講演や演習を行う予定。今年度については、教師・生徒両方の英語での発話量を増やすチーム・ティーチングの在り方について、理解や実践力を高める研修プログラムを立案する予定である。

宮崎県教育委員会

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		55	47	52	42.6	54	41.1	54		55	
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		20	18.2	22	17.9	24	20.6	24		25	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		55	54.3	60	52.7	63		66		70	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		58	54.1	60	41.5	70		80		95	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	65	47.7	85		90		95		100	
		達成状況の把握(%)	82	63.6	85		90		95		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		92	93.9	94	91.6	95	93.4	96		97	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		55	53.2	58	45.2	62	34.9	66		70	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)		50	49.5	53	47	56	48.2	54		60	
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)		70	74	75		75		80		80	
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)		80	66.6	85		90		95		100	
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	99.2	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	90	99.2	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)		50	43.8	45	42.2	50	57.5	55		60	
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)		70	56.2	60		65		70		73	

校種	指標内容		2023		2024		2025		2026		2027	
			目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	90	100	100		100		100		100	
		公表(%)	85	100	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	90	100	100		100		100		100	